

中央大学国際経営学部 見学調査報告書

調査テーマ	シンクタンク・コンサルティング会社の業務
調査日	2019年11月1日(金)14:00～15:30 および 16:00～17:30
調査先	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 ソーシャルインパクト・パートナーシップ事業部 杉原美智子 LEAP OVER 事業統括 政策研究事業本部 経済政策部 北洋祐 副主任研究員 池田貴昭 研究員
担当教員身分・氏名	准教授 国松麻季
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生 19名(2グループに分かれて実施)
調査趣旨・目的	同社の事業概要に加え、特にスタートアップ(起業)を取りあげ、同社がアクセラレータとして行う支援事業及びスタートアップ支援政策に関する調査研究の2つの側面から同社の事業活動について聞き、コンサルタント・研究員業務の実態や考えについて、質疑応答を交えつつ理解を図る。
調査結果	<p>同社の事業概要全般および研究員・コンサルタントの日常業務に関し、新卒採用関連資料等を活用しながらの説明を聞き、研究員が入社後、現在に至るまでどのような業務を行っているか、政策に関与するためにどのような信念をもって研鑽を続けているか等を聞いた。政府を発注者とする業務が中心であることから、約半数の参加学生が前日の経済産業省訪問と併せて立体的な理解を得た。</p> <p>また、具体的なプロジェクトの例として、スタートアップ(起業)支援を取り上げ、スタートアップ支援において同社が具体的にどのような取り組みを行っているか詳細を聞いた。さらに、同社を来訪中の起業家による「ピッチ」(短時間で潜在的投資家に訴求するためのプレゼンテーション)の指導を展開していただくなど、業務の一端を実際に目にする機会も得た。</p> <p>学生は、事前準備を通じて疑問となった点である「支援対象の選抜方法」について聞いたところ、「人として信頼できるか、信念を持っているか」を主眼とするといった回答を得た。また、英語や経済分析などスキルを持つことの重要性や、入社してからも継続的に学び続けることの必要性などもディスカッションの場で伝えられた。学生の事後レポートから、業務におけるチームワークや信頼の重要性はもとより、大学時代から強みを持てるよう努力をすべきことや、コミュニケーションや信頼獲得に向けた修学を重視すべきことなどへの理解が進んだことが見て取れた。</p>

同社の受付



緊張気味に会議室に向かうところ



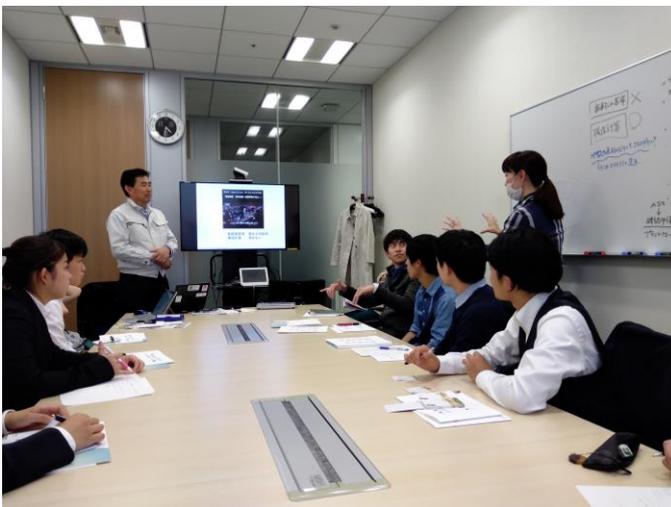
若手研究員のお話に着きこまれる学生たち



メモをとりながら真剣に聞いています



スタートアップの方の「ピッチ」をブラッシュアップする現場を見せていただきました



ビジネスの魅力を端的に伝える技術が勉強になりました



学生代表から挨拶



訪問の最後は集合写真で締めくくりました

